

木曜の窓



土井 敏秀

男鹿半島に
伝わる盆踊
りも踊っ
て、盛り上
がりが続
く。「来年
また来るって。だから
それまで死ぬなって言
われた」
そんなバサマたちを
女子学生は、口をそろ
えてこう言った。「こ
このおばあちゃん、み
ーんな、かわいーい」
加茂青砂の男衆よ、
どう思う？「かわわ
いーい」だぞ。これか
らは、バサマを見る目
を変えないといけない
か……。

その日のTシャツを
着た、加茂青砂のバサ
マが11人、キャンプ場
の炊事場で立ち働いて
いる。「利かねバサマ」
たち。70歳を過ぎても、
てきぱきとした動きは
当たり前である。絶え
ない笑いが広がって
いた。

バサマ11人衆

秋田県立大の学生、
教職員約50人が1泊2
日の日程で、加茂青砂
にやって来たのは8月
上旬。海辺の暮らして
触れ、地区の人と一緒
に太鼓のコンサートを
楽しもう……という
「加茂ライブ」。
バサマたちは「郷土
料理」指導などのボラ
ンティアに、手を挙げ
てくれたのだ。「魚の
さばき方を教えてほし
いんだと……」。そう
「やる前は大儀だ
なあ」と思ったことも
あった。年だもの。
それがやり始めたらハ
マッタ。なあ、みん
な、
料理作りが最も印象
に残った、という男子
学生は「お年寄りは元
気で優しいな」
「私は団結力があ
るもの。交流相手に選
んだのは正解だよ」。
口達者に弾みがつい
た。
ジャッパ汁、サザエ
のつぼ焼き、焼き魚、
煮魚、漬物……。幾つ
もの料理が並んだ。男
衆も入った交流会が
始まる。「この日が来
るのを心待ちにしてい
たの。こんな楽しいこ
とは久しぶり」。
コンサートでは、和
太鼓、アフリカの民族
楽器が繰り出す激しい
リズムに体を預けた。

2008.8.28 毎日新聞